

岡部研究プロジェクト「研究論文概要集」(2004年度春学期)について

岡部研究プロジェクトでは、1998年度春学期以降、参加メンバーが学期中に執筆したすべての研究論文の「概要」を学期毎に一冊にとりまとめて刊行しています。本書は、2004年度春学期のものであり、このシリーズの第11号に該当します。

今学期の研究テーマは、研究プロジェクト1「金融研究：情報化の進展と金融業」、研究プロジェクト2「日本経済研究：情報技術革新と日本経済」の二つであり、ともに情報通信技術革新のインパクトを広範に検討することを中心課題としました。今回の概要集は、第3号以降の刊行物と同様、二つの特徴があります。一つは、ここに収録されている論文要旨は、すべて研究報告会議において報告され（今回は2004年7月10～11日に湘南国際村で開催）、そこでの討議を踏まえて改訂されたものとなっていることです。もう一つは、この冊子の刊行が湘南藤沢学会の正式刊行物として発行されたことです。

本書を刊行する理由は二つあります。第1に、各研究の成果の要点を記録しておくこと自体に意味があることです。第2には、研究テーマとして多様な視点があることを示すことによって、今後の研究の糸口を見つけるヒントになることが期待されるからです。なお、個々の論文に対する質問等は、直接執筆者に対して行ってください（電子メールアドレスは各人の名前のあとの記号@sfc.keio.ac.jpです）。また、過去の「概要」集の目次（履修者の研究テーマ一覧）は岡部研究プロジェクトのウェブサイトに掲載してあります（アドレスは下記）。

なお、これらのうち最優秀と認められたもの（各研究プロジェクト1編、計2編）は、従来どおり、その論文全体が単独刊行物として湘南藤沢学会より刊行される予定です。従来のそうした岡部研究プロジェクト優秀論文は、それぞれすでに公刊されているほか、そのすべてがインターネット上でも公開されており、論文全体を簡単にダウンロードすることもできます。

2004年7月

総合政策学部

岡部 光明

<http://web.sfc.keio.ac.jp/okabe/>

目 次

研究会 1

人民元の切り上げによる日米経済に与える影響（王 国君）	1
金融サービス業：ファンクショナル・アプローチ（小谷光星）	2
金融政策と物価の安定：市場型間接金融との関係から（永川朋宏）	3
日本企業の資本構成：エージェンシー理論の実証分析（藤井 恵）	4
金融契約と経済発展：情報と信用の視点からの理論的分析（光安孝将）	5
中小企業金融の多様化：直接金融の可能性（遠藤泰光・米谷 曜）	6
産業再生機構による企業再生の現状と課題：九州産業交通・臼井百貨店の事例から（岸本庄史）	7
銀行規制の市場規律アプローチ（藤原史義）	8
外国人労働者の受け入れ是非に関する研究（木村暁穂・小林 龍一良）	9
90年代以降の財政政策乗数の測定：構造VARモデルを用いて（広瀬徳士）	10

研究会 2

金融資産選択と社会的人間（遠藤倫生）	11
日本企業の統治構造と経営効率性：実証分析（杉山貴昭）	12
職務発明制度に関する理論分析：法律・ゲーム理論・契約理論の視点から（千野剛司）	13
経済学的視点からみた義務教育政策（栗本雅也）	14
コーポレート・ガバナンス論の動向（中谷悠輝）	15
新幹線建設の費用と効果：費用便益法による実証分析（村上淳也）	16
モジュール化--薄型テレビ産業を事例として--（永井裕二）	17
コーポレートガバナンスにおける機関投資家の役割：国際比較（宇佐美奈穂）	18